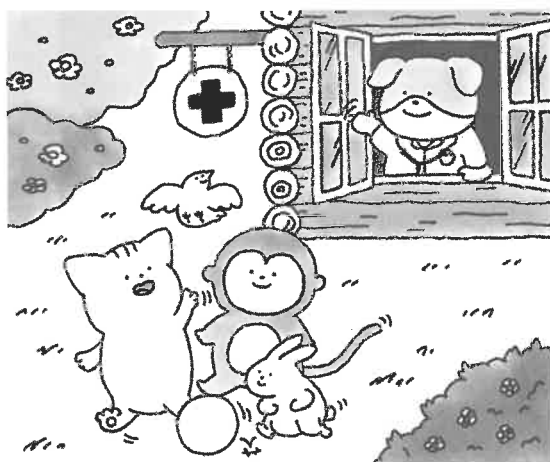


基礎から学ぶ 障害と医療

第1回 知的障害ってなに？

東京学芸大学

平田正吾



変化してきた知的障害の定義
知的障害は、よく知られている障害だとは思いますが、その呼び方や定義はこれまでに変化してきました。例えば、現在の国際的な診断基準の一つでは、知的障害は「知的能力障害」や「知的発達症」、「知的発達障害」という診断名がきます。この知的障害は精神発達遅滞や精神遅滞と呼ばれることもあります。

現在ではこうした名称は避けられるようになっていきます（数年前に北欧の学校を訪れた際に、*mental retardation*（精神遅滞）という名称は使用しないと、強く言われたことを思い出します）。知的障害の国際的な定義や診断基準には、世界保健機関の「国際疾病分類」（ICD）、米国精神医学会の「精神疾患の診断・統計マニュアル」（DSM）、米国の知的・発達障害協会（AAIDD）によ

るものの、まず3つが主なものとして挙げられます（表1）。これらの定義には、細かなちがいはありますが、共通しているのは知的機能が低いということです。この知的障害とは考えないということです。この知的機能の低さに関しては、多くの場合は知能検査を実施し、知能指数（IQ）を算出することで評価しますが、この点については次回に述べたいと思います。

では、知的障害とはIQの低さ（およそ70よりも低い）以外に、どのような状態を示しているのでしょうか。それは適応行動（適応機能）の問題を示しているということです。そもそも適応行動とは、米国的・発達障害協会によると、「日常生活で学び、使用している概念的、社会的、実用的スキル」とされます。この内、概念的スキルの問題とは、読みや書き、計算の困難や、問題解決の問題などが挙げられます。また、社会的スキルの問題とは、対人関係の問題や社会的なトラブルへの巻き込まれやすさなどが挙げられます。最後に、実用的スキルの問題とは、セルフケアや家事のような事柄の困難などが挙げられます。この適応行動と知的機能の関係については、